

研修便り



研修部
平成30年
6月29日
vol.5

特フ口授業研 事後研

先日の研修、お疲れ様でした。森先生の授業後に、書いていただいた付箋をもとに意見や質問などを出し合いながら検討を行いました。

今回の授業研を受けて、「明日から生かしたいこと」を簡単にまとめましたのでご覧ください。また、ぜひ話し合われた内容や指導案、授業を参考に、ご自身の指導にも生かしていただければと思います。

振り返り

- ・最終的な目指す姿（ゴール）を示すといい。
- ・単元全体を通じた目標（見通し）をもつことが大切。
- ・単元のゴールを明確に子どもにも見えるように提示する。
- ・1時間のゴールと、単元のゴールを明確にすること。
- ・授業のゴール・単元のゴールを明確に示す。
- ・目的、到達度を明確にして指導にあたる。
- ・単元のゴールを明確にし、子どもにも伝える。
- ・授業の冒頭に、自分が授業を通して何ができるようになるのか示す（ループリック）
- ・「今日身に付けさせたい力」を明確にした上で授業に臨むことで、手立てや支援がはっきりしてくると感じた。
- ・どの教科でも単元が終わった時に「～の力」が身についたといえるようにしないといけないと改めて思いました。

明日から生かしたいこと

- ・1時間の授業が終わったとき、単元が終わったときに、児童が、どのような姿になって欲しいかを明確にして指導にあたる。
- ・授業や単元が終わったときに「～の力」を付けましたと、自信をもって言えるように！！



- ・繰り返し根気強く取り組む
- ・低位の子にとっては、支援ツールやわかりやすいワークシートで繰り返すことが定着に繋がる。
- ・何度も繰り返すことで「できた！わかった！」に繋がり、意欲をもつことができる。
- ・繰り返し行う（繰り返し確認する）結果、低位であればあるほど「できた」を自覚できる。
- ・定着に向け、繰り返し根気よく指導すること。
- ・簡単な計算（一位数-一位数）が定着していなくても、2位数-2位数を経験できるなら、例えば定着しなくても経験させる場は与えるべきだと思いました。色々な学習の中を広げられる子は広げ、そうでない子は繰り返ししかないのかな。

明日から生かしたいこと

- ・全ての児童に定着することを目指し、根気強く、繰り返し指導する！



- 個に応じた支援ツールは、特支でも通常でも変わらずに活用する。
- 低位の児童には、生活にからめた題材やツールを活用する。
- つまづきに合わせた指導や支援ツール（特別支援から発信）
- 生活に近い具体物を用いることの大切さ（必要感 up, 意欲 up）
- 低位の子に使う教材と導入時の工夫（位取り表、ヒントカード）
- 低位の子には支援ツールなど具体物が有効であること。支援ツールとどこまでツールとして使用するのかは、個人の実態によるということ。
- 個の実態を把握し、それに合ったツールを準備する。→段階表のようなものを作る。
- 支援ツールやマネーゲームなど視覚的にわかりやすく、子どもたちが楽しく取り組めるものを低位の子に活用する。
- 低位の子、困り感をなくすためのツールやヒントの大切さ。
- 学習意欲を引き出すために、身近な題材を取り入れることも重要な手段であると知った。

明日から生かしたいこと

- **低位の児童、つまづきのある児童の実態に合わせた支援ツールや、生活にからめた題材を使用する！**



- 振り返りで、どんな言葉で表現させたいのかを教師が具体物な子どもの姿をもっておくことが大切。そして、見る側も「子どもの姿」をもって語り合えると主体的・対話的で深い学びに繋がる

明日から生かしたいこと

- **振り返りで、どんな言葉で表現させたいのかを、具体的な子どもの姿をもつことが大切！**



- さわやかな笑顔
- 森先生のような優しくてさわやかな笑顔が心がけます。
- 楽しかったという児童の笑顔がみられる授業を心がけたいと思いました。

明日から生かしたいこと

- **子どもをキラキラさせる素敵な笑顔！！&雰囲気づくり！！**



- 1 単位時間では、課題-まとめ-評価が一体である必要性を感じた。
- 興味が沸く、学習したい！と思わせられる課題や問題の設定。
- 支援ツール、課題が適切かどうかを見極める。（教材研究）
- 個に応じた教材の工夫、指導方法を考えることが大切だと改めて思いました。
- 実生活との結び付きのある（マネーゲーム）を学級でも取り入れて、両替＝繰り下がり繋がりをもたせたい。
- 個人差があり、児童の待ち時間がでてくるのがよくある。そのようなとき、学年によって待たせ方がちがうので、自分のクラスに何が合うのかを考えていきたい。（教えていただきたい）
- 時間を有効に使った授業展開（速い子、遅い子のちょうど良いところ見つけながら）
- 特別な支援を要する児童への支援のあり方と、その工夫。他の先生方との統一した指導。
- 児童の実態に応じて到達度合を考える。
- 一人一人にあった役割（やること）を明確にすると、意欲に繋がる